

●「SHINWA WALK～伝説そぞろ歩き」は、「ギリシャ神話と日本神話のハイブリッド」という手法で、郷土の神話、伝説、民話の足跡をたどるロマン紀行です。新しい伝説の世界をお楽しみください。

# SHINWA WALK 42

## 家康幽閉伝説

伝説  
そぞろ歩き

竹河や  
千代に八千代に  
苔むすまで  
幽閉に耐え  
天下統一



### 運命に翻弄され続けた幼少時代

#### 綱渡りで生き延び天下人に

熱田神宮の南の羽城町に加藤図書助順盛の屋敷跡があります。ここは徳川家康が幼少期に幽閉されていたとされる場所です。

天文16年(1547年)8月2日、今川家の人質になっていた家康(竹千代)は、遠江白須賀あたりで織田信秀によって拉致されて織田の人質となり、尾張の豪族加藤家に預けられたのです。その時、竹千代はまだ6歳でした。監視付きの人質生活は、遊び盛りの竹千代にとって苦しいものでした。監禁状態の竹千代の唯一の楽しみは、折り紙で、加藤家にはこの竹千代手折りの雛人形をはじめ、後に江戸幕府を起こした家康から贈られた品々が残されていますが、戦災ですべて焼失しています。

しかし、竹千代が人質となった2年後に、父の広忠が家臣の岩松八弥に暗殺されます。ここで竹千代は人質としての利用価値がなくなります。ところが、翌年、安祥城(安城)を守っていた信秀の次男・信広が、今川・岡崎連合軍によって略奪され捕まってしまうこととなり、天文18年(1549年)11月9日、信広を織田に返す交換条件として竹

千代も岡崎に戻ることができたのです。

しかし、ホッとするのも束の間、再び駿府へ人質として送られます。竹千代8歳の時で、人質生活はそれから18歳まで続きますが、これは家康に忍耐することの大切さを教えました。戦国時代の人質は絶えず死と背中合わせ。要なしとなれば、即殺されます。そんな綱渡りの中、生き延び、天下を取ったのが家康なのです。

加藤家は「羽城の殿様」と称されていて、古い時代には、熱田の海一帯の取締りを司っていて、今でいう水上警察のような存在であったといえます。



▲ 住宅街の中にひっそりと建っている加藤図書屋敷跡の石碑



## 42nd Letter

### 幽閉王女と結ばれペルセウス誕生 冒険の始まりは王の策略から

ギリシャ神話では父親が娘を幽閉する話があります。アルゴスの王・アクリシオスには、一人娘の美しいダナエがいて、かわいがっていましたが、ある日、恐ろしいご神託が下ります。ダナエが生む男子が、王を殺して国を奪うというのです。驚いたアクリシオスは、王位を守るため、苦渋の決断をします。宮殿の中庭に地下牢を築き、ダナエを幽閉したのです。四方は青銅の壁で取り囲まれ、屈強な番人が絶えず目を光らせています。

ダナエはこの地下牢で一生を終える運命となるかと思いきや、その様子を見ていたのがゼウス。美女が一人で幽閉されているというチャンスを逃すはずがありません。

何とか想いを遂げる方法はないかと思案の末、ゼウスは黄金の雨となり、わずかな隙間から地下牢に侵入しました。ゼウスとダナエは結ばれ、やがて一人の男子が誕生。それがペルセウスです。

ある日、アクリシオスは、地下牢から赤ん坊の音が聞こえてくるのに気がつきます。不審に思って扉を開くと、赤ん坊を抱いたダナエが飛び込んできました。ダナエから赤ん坊がゼウスの子であることを聞いたアクリシオスは、わが身の危険を感じ、ダナエ親子を青銅の箱に入れ、大海原に流しました。ダナエ親子はセリポス島まで流れつき、ディクテウスという心優しい漁師に救われ、ペルセウスもすくすくと育ちました。

しかし、この島を治める王・ポリュデクテスが美しいダナエに心を奪われてしまいます。実はポリュデクテスはディクテウスの兄ですが、兄弟でも性格はまったく違いず賢い

王様で、ダナエを王宮に迎えるためにはペルセウスが邪魔なので、ペルセウスを始末する方法をアレコレ策略するのです。

そして、ポリュデクテスは他の女性に求婚するふりをして、祝宴を開催します。この島ではこのようなパーティーに招待されたら、お祝いの品を献上するのが習わしとなっていました。ペルセウスは手ぶらで出席してしまいました。恥ずかしさで顔を赤らめるペルセウスに「漁師のお前が貧乏なことよく知っている。魚一匹で十分だ」と嘲笑します。カッと化したペルセウスは「ありふれた物を献上するつもりはありません。メドゥーサの首を取ってきて王に贈りましょう」と啖呵を切ってしまい、後にひけなくなり、有名なペルセウスの冒険に出かけることとなります。



※今回は、かつて熱田神宮西門の西側にあった菖蒲池伝説を特集します。お楽しみに。  
■ 写真/Kiyoshi K ■ イラスト/Rei ■ 取材文/Icarus